

開催日:11月8日(金)

会 場:三次コミュニティセンター

参加者数:27人

参加者の発言	市の発言	備考
・ふれあいフェスタや盆踊り等を開催したが、日頃から住民自治組織に対する行政の様々なサポートについて改めて御礼申し上げる。市政懇談会にあたり、役員会をはじめとする地区の皆さんから出たいろいろな意見をまとめた。 ・三次地区内では、空き家が目立ち始め、商店街については空きテナントが多い状況にある。地区町民として、そして商店街として、主体的に動かなければならないが、市からはどのようなサポートをしていただけなのか。 ・来年から、三次小学校は新しい校舎になる。通学路については大きく変わらないが、現在も非常に危険な場所があることから対策してほしい。また、寺戸地域から三次中学校に登下校する子どもたちがいるが、非常に狭い道路を車が行き交う中、歩いている場所もある。対策について教えてほしい。 ・三次町本通り商店街の石畳道路に関する補修が、年々増えてきた。今後、道路補修を続けていただけなのか。また、商店街の活性化について、三次もののけミュージアムとの関連性も含めた対策を教えてください。	・三次地区中心部については、老朽化した危険な空き家が周辺に与える影響は大きく、除去を促進していくことを考えている。そのため、令和5年度は、274件の空き家と思われる建物を把握した。また、危険な空き家については、文書による指導を繰り返し行い、その結果として解体が進んでいる事案もある。一方で、法律に基づく指導や勧告を行っても、所有者による対応が進まないという物件については、行政代執行などの法律に基づく措置も考えている。 ・現在、空き家及び空き店舗の解消と地域の活性化を目的とした補助メニューが3つある。一つ目が、チャレンジショップ運営支援事業補助金であり、本格的な開業をする手前のチャレンジしたい方を商店街が応援するための補助金である。この支援事業については、これまでも、三次本通商店街振興組合に活用をいただいており、チャレンジ後に本通り商店街に開業された方もいる。二つ目は、空き店舗出店支援事業補助金であり、元々店舗であったところを活用して、開業するための補助金である。そして、三つ目として、起業支援事業補助金で、新たに事業を始めた方を応援する補助金がある。それぞ補助額100万円を上限としているが、内容も若干違っていることから、商工観光課に相談してほしい。 ・通学路に危険な箇所や危険なブロック塀などがある場合、小学校や中学校、PTAなどと連携した通学路安全プログラムで把握をする。その後、市土木課や市都市建築課が管理する箇所については修繕工事を行うとともに、危険なブロック塀等の設置者による撤去等の対応を行っている。三次中学校への通学時間帯では、一方通行になっており、子どもたちが歩かれている姿をよく見かけている。後日、詳しい状況を聞かせていただきたい。 ・三次地区については、尾関山にあるレールバイクやもののけミュージアム、「もちのえき」などがある。現在、観光アプリとして、「みよしものけ探索AR」を行っている。今後は、巴峠かわまちづくり計画にある、旭町公園での屋台やキッチンカー、尾関山公園周辺での観光遊覧船なども検討し、三次町本通り商店街のにぎわいにつなげていきたいと考えている。 ・通行に危険が生じる場所については、石畳の修繕工事を行っている。石が割れて、その石が使えない場合は、アスファルトを入れて修繕をしている。今後、アスファルトを入れていく箇所が増えてくれば、街並みの景観を維持するために全面的な改修等が必要になると思うが、現時点では、全面的に改修する時期ではないと考えている。	
・備んだ県道について修繕をしていただいた。従前は赤茶色であったが、今回は黄色で明るくなった。 ・津山市に行くと、森の行事を催されており、無料でアト巡回バスを出されていた。1時間おきに津山駅前を出て、無料で名所を巡ることができる。今後、観光に関するいろいろな行事があるときには参考になると思う。	・速やかに対応できる相談と対応できない相談がある。本日、意見をいただいたことで、担当者の励みになり、モチベーションの向上にきつとつながっていく。他の市職員にも共有したい。 ・芸術線を利用してJR三次駅に降りたときに、岡山芸術祭のポスターが貼ってあった。岡山県に観光客を増やすために、JRが主催した事業であり、歴史的な街並みや美術館などの文化的な場所を回る取組を、各自自治体が連携して実施している。三次には素晴らしい場所がたくさんあるが、回るのは3日・4日もかからない。市では、備北エリアに来て、各地の素晴らしい場所に行ってもらい、滞在時間を増やして、宿泊にもつなげていきたい。観光分野においては、広域的に取り組んでいくことが非常に重要になっていると思う。今後においても、民間事業者と連携して、たくさんの方が素晴らしい観光地や施設を訪れて、何かしらの体験ができるような取組を行ってきたい。	
・本通り商店街で、空き家対策事業を活用してお店を出した。今後も、店を出してほしいが、空き店舗がない状況である。しかし、補助制度を作っていたことから、商店街が頑張っていかなければならない。私たちが頑張って、補助制度を活用して、地域の皆さんにもかわいがっていただけるようにしていきたい。 ・石畳に危ない箇所がある。最近、高齢者の方も増えてきている中で、かなりでこぼこがあり、普通に歩いても、危ないところもあることから、少し不安である。	・貸し出せるような店舗や空き家の情報などを商店街の中で共有してほしい。そして、商店街の中で、いろいろな情報があれば、市にも提供してほしい。 ・石畳は老朽化しており、高齢者にとっては、ちょっとした段差でつまずいたりされることも想定できる。今後、できる限り石畳と同じ高さになるような形で修繕していきたい。全面的な改修については、しかなるべきタイミングを見極めていきたい。	
(旧三江線の)レールバイクをお手伝いしているが、福山市や広島市、神戸や北海道あたりから来られたお客さんから、食べ場所がないのかとよく聞かれる。三次もののけミュージアムのレストランが閉まっており、週末だけでも、早急に開けてほしい。三次シルバー人材センターが運営されている「よりんさい」も、日曜日は休みである。レールバイクには、多くのお客さんが来られており、もう少し努力してほしい。また、本通り商店街が活性化して、子どもの声がするようになってほしい。	みよしDMOが、三次もののけミュージアムの指定管理を受けている。これまで飲食スペースに入っていた事業者が、採算が合わないことを理由に、2月に撤退した。その後も、継続して募集しており、引き合いは結構ある。入館者数や経営状況、立地条件などを見て躊躇される事業者や、開店にあたり従業員を確保できなかった事業者もあられた。現在も募集をしているが、なかなかマッチングしない状況である。特に、冬場はお客さんが急激に減るため、非常に厳しいと聞く。レールバイクをしている旧尾関山駅近辺に店を構えていただくことがよいと思う。また、開催日に、キッチンカーで出ていただくこともできると思う。いろいろな場合を想定しながら、検討していきたい。現時点では、レストランを再開することはすくにはできない状況である。	
・三次地区では、空き家の解体等が目立ち始めた。それは行政にいろいろな動きをしていたいただいた結果と思う。空き家が増える、防災や防犯、衛生環境など、地域の安全が揺らぐ原因にもなる。三次地区自治会連合会として情報提供するので、一緒に取り組んでほしい。本通り商店街の空きテナントを提供していただけない状況であり、市も一緒に大家さんを口説いていただくことが必要である。 ・通学路について、小学校の先生も一緒に歩いていただき、安全対策を考えてほしい。 ・本通り商店街の活性化策として、電柱の地中化工事などハード整備をしてきた。これからも、補修等の予算を確保していただき、しっかりと整備してほしい。その一方で、結果をそろそろ見出していかなければならないと、私たちも思っている。地域の活性化や住民の暮らしの豊かさのために、新しい取組と一緒にできればと思っている。 ・三次もののけミュージアムは5周年を迎えた。「もちのえき」が頑張って営業されており、栄町の方にはお客様が流れているが、地区町民として、なかなか実感が湧かない。今後、三次もののけミュージアムをどうしていくというのか。例えば、年間来場者としてどれぐらいの方に来ていたこうと思っているのか教えてほしい。 ・三次DMOは、三次町のにぎわいづくりの一端を担うことを目的に設立されたと記憶している。現在のところ、なかなか連携が取れていないところもある。三次地区のにぎわいづくりに対する三次DMOの立ち位置を教えてください。	・三次もののけミュージアムについて、オープンした年は、約14万人に来ていただいた。その後、コロナ禍によって、減少してきた。入館者を年間6万人という目標を持って運営している。今年度については、5周年記念もあり、少し伸びている。今のところ4万人程度来ていただいている。現在、三次もののけミュージアムと住民自治組織と市行政による定期的な情報交換等をしている。今年度も、盆踊り大会へのご協力をいただいた。また、スマートフォン上にもいろいろな妖怪が出てくるアプリをつくり、そのポイントを街中につくことによって、街を散策していただける新しい企画をしている。もののけハロウィンの日など、企画展以外にも担当職員が頑張っていることから、地域の皆様方も、ご家族やご近所にお声掛けいただき、一緒に参加してほしい。 ・10月26日から「観光アプリもののけ探索AR」を実施しており、三次もののけミュージアムでも、もののけを捕まえることができる。三次もののけミュージアムから商店街への誘導を図ってきたい。そして、電線の地中化や石畳を整備した三次町本通りは、家屋の修景補助をご活用いただくなど、家屋所有者の協力のもと、少しずつ変化のある魅力あるまちになっていると考えている。大きな施設整備は終了したと考えている。三次の歴史と景観を市内外に発信し、外国人観光客の誘客促進を進めていくとともに、訪れる人が癒されるまちをめざしていきたい。 ・みよしDMOは、2017年12月に設立された。当初の設立目的は、三次市の観光における稼ぐ力と交流の創出、観光の舵取り役を担うことであり、現在は、プロモーション事業や観光鑑賞、三次もののけミュージアムの指定管理などをされている。三次もののけミュージアムが2019年4月に開館したことに合わせて、三次地区のにぎわいづくりに取り組む必要があったことから、みよしDMOに三次地区のにぎわいづくりに注力していただいた経緯がある。また、三次町まちづくりを進める金の事務所のほか、もののけ小路の整備、「もちのえき」の管理、石畳通りや博物館を利用した夜間の観光も実施してきた。三次地区のにぎわいづくりにしては、辻村寿三郎人形館やSL保存クラブと連携した体験型の観光商品の造成などに取り組んでいた。三次地区には、三次もののけミュージアム、辻村寿三郎人形館、尾関山や石畳通りの風景など、多くの観光資源がある。これらの情報発信とあわせて、歴史・文化を生かして、三次地区だけでなく、三次市全体の観光消費額の拡大につなげていきたい。ただし、みよしDMOだけでは取組ができないことから、観光関係の事業者とといったプレーヤーと連携した取組が重要になってくると考えている。	
集客している観光人口はどうなっているのか。また、それに伴う収益はどうなっているのか。	例えば、「もののけ小路」を通る方は、令和4年が2万3,000人程度、令和5年が2万人程度であり、これが、三次もののけミュージアムから栄町に回遊されている人数となる。三次市全体の観光消費額は、令和元年度が65億円程度であったが、令和5年度は70億円を超えている状況である。そして、令和10年の目標を77億円と掲げ、現在、三次DMOと一緒に取り組んでいる。	

開催日:11月8日(金)
会 場:三次コミュニティセンター
参加者数:27人

参加者の発言	市の発言	備考
三次地区の観光消費額はいくら。	・今、三次地区の観光消費額に関する数字を持ち合わせていない。後日、住民自治組織を通して回答する。 ・三次もののけミュージアムを活用して、いろいろな施策をつなげていくことに注力している。三次地区には、レールバイクの運行や、尾関山や妖怪博物館があり、三次町本通り商店街と妖怪博物館をつなげるため、もののけ小路をつくり、回遊性を持たせる取組をしているが、観光客の皆さんも感じておられるように食べるところがない。三次地区だけではなく、君田温泉やカーヌー公園さくぎなど、より大きなエリアにある施設をつなぐことも必要である。いろいろな施設をつなぎ合わせる役目をみよしDMOが担っている。また、三川合流部の計画を作成し、国土交通省と進めつつある。この計画を進めるにあたっては、三次の貴重な観光資源である鶴飼い、全国的にも珍しい三川合流部、三次町の歴史的な文化や街並み、レールバイクなどを楽しんでいたけるような環境を、国土交通省や地域の皆さん、みよしDMOなどと連携しながら構築していく。今後については、ハード事業ではなく、いろいろな皆さんの力を結集して、取組をつなげていく、発信をしていくという、いわゆるソフトの部分が重要と考えている。専門家の意見もいただきながら情報発信やプロモーションを行い、多くの方々に町を歩いて見ていただけるような環境をめざして取り組んでいきたい。	【住民自治組織へ回答】三次町へある辻村寿三郎人形館、尾関山公園、湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)、もののけ小路の4地点で延べ観光客数を集計しています。令和5年度の観光客数は市全体で約215万人ですが、三次町では約15万人であり、全体の7%です。市全体でみると一人当たりの観光消費額は3,297円ですが、三次町における観光客の経済効果は算出していません。観光消費額に観光客数を掛け合わせる方法では経済効果を算出することはできないと考えています。
今の段階における三次町の経済効果は、数値的にはわかりづらいと思う。三次町に、これまでおよそ何万人ぐらい来られて、どれぐらい消費されたのかを教えてください。町民が安心できる材料になる。住民自治組織としても、市やみよしDMO、妖怪博物館と、積極的に、この拠点施設を推進していかなければいけないと思っている。観光客など市内外の方々に訪れていただきたいという思いは持っている。観光客呼び込むためだけではなく、地元の拠点施設、暮らしの拠点施設にもしていこうということで交流館があると思う。その交流館を私たち自身がもっと活用していかなければならない。市には、観光と暮らしの両面から、三次町本通りや尾関山などを含めた三次町内が発展できるような計画を立てて、町民にわかりやすく示してほしい。	地域づくりを自分事として捉える意識変革が重要である。常会や自治会に加入しない人も増えてきており、災害など何かある時には、人とのつながりが非常に大事である。自治権を広げるためには、住民の皆さんの自治意識を醸成し、発信していく必要がある。その思いを多くの人と共有していく。	
川の水位がどれぐらい変わっているのか把握されているのか。漏水するときは、歩いて渡るぐらいの深みである。一方で、大雨が降ったときは、水位がかなり上昇する。現在、河川が合流する箇所のサルベージをしている。今回は、でき上がった橋を持ってきて、置いて、両側の土砂を盛り上げることににより、大型重機が入るようになった。このように、近代化した方法を用いながら、人手を減らすように努めておられた。しかし、どうして、大雨が降るような時期に工事をするのか。国土交通省の事業ではあるが、もっと費用を抑えた方法について協議をすることもできるのではないか。	川に入れる時期に工事を実施されている。今回の大雨では、市災害対策本部を立ち上げた。この時期にこれだけ雨が降ることは、今までなかったと思う。今回、中所の国道375号では、2時間、3時間程度の通行止めをして排水ポンプ車による排水を行った。今後、災害はどのような形で来るかわからないところもあるが、国や県と協力しながら、住民の安心を確保する対応をしていきたい。	
尾関山の桜堤は、三次町民にとって非常に大切なものであると同時に、三次の観光資源である。長持ちするように、プランニングしてほしい。尾関山ファンクラブも頑張っている。	尾関山ファンクラブの活動として、肥料を与えるなど、地域の方に協力していただきながら、桜土手を守っていかねばならないと思っている。	